

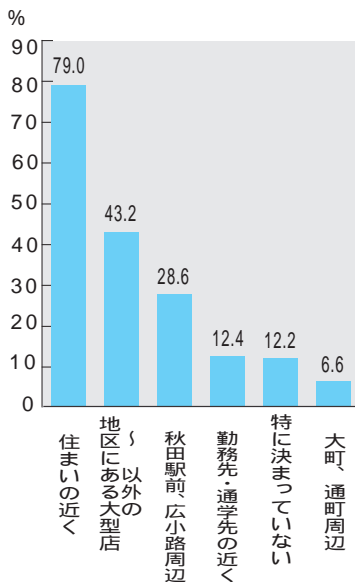
秋田市の将来像としては、「お年寄りや障害のある人が安心して暮らせるまち」が五九・七%と最も高く、次いで、「子どもがいいきと育つまち」が四九・九%となっています。これは、これからの少子長寿社会への不安を反映しているとともに、安心でかつ希望をもつて暮らせるまちづくりが望まれていることを示しています。

以下、「災害への備えがよく安心して暮らせるまち」「交通の便がよく、生活が便利なまち」の順となっています。

少子長寿社会への対応が重要に

秋田市の将来像は？

複数回答 (三つ以内)

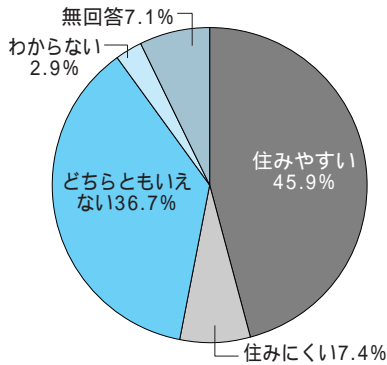


「住まいの近く」が、七九・〇%と全体の八割近くを占め高くなっています。「秋田駅前、広小路周辺」は二八・六%でしたが、二十歳未満では六七・三%と最も高く、若年層の利用が目立っています。

日常的な買い物は？

複数回答 (二つ以内)

若者は秋田駅前・広小路で



住みやすいが約半数

秋田市の住みごころは？

「住みやすい」が半数近くの四五・九%を占め、「住みにくい」は七・四%にとどまっています。しかし、「どちらともいえない」が四割近くに上っており、住み心地について必ずしも満足していないことがうかがえます。年代別では、若い年代ほど「住みにくい」と答える人が多くなっています。

住環境への要求が高まる傾向に

個別の住環境は？

